

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年6月30日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.128]

松崎氏は「9.11テロ」は米国の「自作自演」と主張！JR総連の見解は？

前号では、JR総連が自ら革マル派と断定していた小西富士雄氏を特別執行委員に指定し、「九州再建の闘い」に懸命になっている実態を検証した。JR総連は九州ユニオンに対し、最近では2009年8月に「あらためて関係修復のための話し合いを呼びかけます」なる文書を送付したようだが、未だに溝が埋まる気配はない。

九州労大量脱退事件と坂入氏拉致事件の真相は明らかではないが、本情報での検証から、1991年頃から革マル派内で党中央とJR革マル派の間で運動方針を巡る「対立」が発生してきた中、坂入氏やJR総連前委員長の小田氏らJR革マル派が首謀した脱退事件が起こり、それに怒った小西氏を含む党中央が坂入氏を拉致・監禁して自己批判をさせたという構図が浮かび上がる。そして、九州労を脱退するものの、JR九州労組に加入できなかった組合員が九州ユニオンを結成しJR総連に再加盟することとなった。JR革マル派の指導で右往左往させられた組合員は、その後、JR総連から戦術の失敗を厳しく批判され「裏切り者」呼ばわりされる事態となり、産別脱退に至った。こうした経過をみれば、両者の関係が容易に修復できるとは到底思えない。

そもそも、革マル派が深く関与する九州労大量脱退事件と坂入氏拉致事件を解明することが先決だ。JR総連は真相を説明する責任がある。数々の重大な疑惑をひた隠しにするJR総連が、政府から革マル派の浸透を指摘されるのは当然である。

松崎氏は九州におけるJR総連再建へ意気軒昂だが...

九州における組織対立が深まる中、動労OBの動きが活発化している。2010年5月23日には「松崎明氏を囲む」と銘打った「九州動労同窓会」が福岡市内で開催され、動労OBのほか、九州出身の西労・東海労の広域移動者、貨物労組の組合員など170名余が集まったという。この中で松崎氏は講演の中で以下の通り述べた模様だ。

そういうことで、私が「鬼の咆哮」という本を書いて、9.11事件、あれは自作自演であるというのは世界の良識ある人のほぼ常識になっていますから。あんなものよそがやったんじゃないよ。「やられた」ご本人たちが計画したんだよ。ブッシュ。彼こそが張本人なんだ。イラクに何かありました？何もない。ペンタゴンに飛行機突っ込んだ。大型の飛行機が突っ込んだ跡がないじゃないですか。何であれだけのビルが倒れるんですか。ジェット燃料では倒れない。倒れない。内部に仕掛けがなかったら倒れない。それが倒れた、不思議でもなんでもない - 工作されていたからであります。本当のことはね、今マスコミがコントロールされているけどね。それは色々な方々が、そこまでは語っていませんよ。

松崎氏の著書「鬼の咆哮 暴走ニッポン！」には至る所に9.11テロについて米国政府の「自作自演」を疑う記述が多数出てくる。「世界の良識ある人のほぼ常識」かどうかは知らないが、確かに、こうした説を唱えるのは松崎氏だけではないようだ。では、松崎氏を「育ての親」「重鎮」「余人をもって代え難い」「我々の人格的代表者」などと尊崇(「No.64」「No.74」を参照)しているJR総連・東労組の役員らも、松崎氏と同様、9.11テロを米国政府の「自作自演」と信じているのか、ぜひ見解を聞いてみたいものである。